

ライティングに関するクラスルーブリック

©関西大学ライティングラボ(中澤務、毛利美穂、小林至道、西浦真喜子)

2014年11月26日完成

評価の観点	評価の観点の説明	1	2	3	4
① 教員の課題意図の理解	教員の課題意図を理解し、それに沿った記述内容になっているか。	課題意図を理解できておらず、レポートの記述内容が課題に沿っていない。	課題意図を理解しているようだが、レポートの記述内容が課題の要件を満たしていない箇所がある。	課題意図を理解しており、レポートの記述内容が課題の要件をおおむね満たしている。	課題意図を十分に理解しており、レポートの記述内容が課題の要件を過不足なく満たしている。
② 資料の取り扱い	資料に関して、その内容を適切に把握し、十分な検討をしてまとめられているか。	資料に関しての記述がない。	資料に関する記述はあるが、その内容を把握できておらず、まとめられていない。	資料に関して、その内容が把握できており、まとめられている。	資料に関して、その内容が把握できており、論に沿ってまとめられている。
③ 自分の立場・意見	自分の立場や意見が、説得力のある論拠とともに、明確に提示されているか。	自分の立場・意見が提示されていない。	自分の立場・意見は提示しているが、その論拠が明らかでない。	自分の立場・意見が、論拠とともに提示できている。	自分の立場・意見が、論拠とともに提示できている、かつオリジナリティがある。
④ 全体の構成	文章全体の構成について、序論・本論・結論、PREP等の形式になっているかどうか。	序論・本論・結論、PREP等に沿った構成ができていない。	序論・本論・結論、PREP等に沿った記述はみられるが、形式的に欠けている部分がある。	序論・本論・結論、PREP等に沿った構成が形式的にできている。	序論・本論・結論、PREP等に沿った構成が形式的にできている、かつ内容的にも一貫している。
⑤ 学術的な作法	用語の定義、引用のルールなど、学術的な文章として適切な作法が守られているか。	満たしている項目が、1項目以下である。	満たしている項目が、2～3項目である。	満たしている項目が、4項目である。	満たしている項目が、5項目である。
⑥ 日本語の表現	日本語の文章として、表現・表記が適切であるか。	満たしている項目が、2項目以下である。	満たしている項目が、3～5項目である。	満たしている項目が、6～8項目である。	満たしている項目が、9項目以上である。

※各箇所をチェックし、もっとも良いケースで判断

⑤学術的な作法

- 1 表題、所属(学籍番号、学部、学年等)、氏名の基本的な情報が記されている。
- 2 出典を明示しており、自分の意見と他者の意見を区別している。
- 3 本文中の引用方法について、ルールに従って表記されている。
- 4 巻末の文献表があり、分野ごとのルールに沿って表記されている。
- 5 専門用語の定義付けや使い方が適切である。

⑥日本語の表現

- 1 誤字脱字がない。
- 2 文法の間違いがない。
- 3 一文の長さが適切である。
- 4 文体が統一されている。
- 5 主語・述語が呼応している。
- 6 句読点の使い方が適切である。
- 7 段落の作り方(一字下げ、行替え、長さ)が適切である。
- 8 重複表現(接続詞、文末)がない。
- 9 論文では避けたい表現(隠語、俗語、口語表現)がない。
- 10 ページのレイアウト(行数・文字数、余白、ページ数の付与)が適切である。

本ルーブリックは、2012(平成24)年度採択 文部科学省 大学間連携共同教育推進事業「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」で作成されたものです